

市民と創る コンベンション都市・横浜

横浜の創造的 コンベンション都市戦略

開港以来、横浜には、日本国内や諸外国からたくさんの人々が集まり、さまざまな知識や文化の出会いの場となってきた。人・モノ・情報の交流の拠点としての歴史のなかで、横浜で培われた新しい独自の文化は日本や世界に広まっていき、現在も約130カ国の人々が横浜に暮らす。「江戸っ子になるのは3代かかるが、横浜では3日住めばハマッ子」といわれるように、異質なものを受け入れる寛容の精神は、その歴史性が培ったものだ。

横浜市では、「ゆめはま2010プラン」(平成5年に策定)のなかで、目標とする都市像のひとつに「創造的コンベンションシティの形成」を掲げた。会議、展示会のみならず、広く文化・スポーツなどのイベントや祭りなど、「ある一定期間、特定の目的で、主に市外から人が集まる催し」として「コンベンション」を捉え、横浜市としてこれらの催しを積極的に誘致し、大勢の人々を国の内外からお迎えし、賑わいと活気のある都市を築いていくということである。

横浜には、国際会議場や大型の文化・スポーツ施設、宿泊施設などコンベンションを開催する都市施設が整っていると同時に、横浜市民の進取の気性や市民の活力が潜在的に高く、「創造的コンベンシ

ョン都市」を21世紀の横浜にふさわしい都市像と考えた。「創造的コンベンション都市」とは、「さまざまな出会いと交流により、新しい情報や価値観が生み出される都市」である。たくさんの人に横浜を訪れてもらい、人とモノと情報の交流の機会を提供しようということであり、訪れる人にとつては魅力的かつ快適なまちであり、また、市民にとつても暮らしやすく、生活を楽しめる都市として発展していくことを目指している。

市民意識調査で「観光・コンベンションの振興」についての満足度をきくと、35%の人が満足と答えたが、40%の人が「どちらともいえない」、20%の人は「わからない」と答えている。一見、市民生活とコンベンション都市の関係はわかりにくい。

しかし、会議や展示会、イベントを積極的に誘致し、創造的コンベンション都市として発展していくことは、①人々が集まることにより(参加者のみでなく主催者や出展者の準備にかかわる人も含めて)飲食、宿泊、買い物、観光などに関わるコンベンション関連産業が成長し経

●創造的コンベンション都市とは 「出会いが価値を生み出す都市」



●主要都市の中・大型国際コンベンションの開催件数

	平成8年	平成9年	平成10年	平成11年	平成12年	12年参加 外客数
1 東京	24	33	53	50	54	11738
2 横浜	20	25	27	22	28	4753
3 大阪	11	9	7	11	21	4046
4 京都	16	34	21	12	19	3361
5 名古屋	17	16	15	9	16	3410

資料：国際観光振興会「2000年コンベンション統計」

注：中・大型国際コンベンションは参加者300人以上、うち外国人50人以上のもの

済的波及効果が高まること、②コンベンションの開催による横浜の情報集積地としての発展と情報発信機能の強化、そして、都市としての知名度やイメージの向上、それに伴う都市環境の整備、③市民同士の文化交流や世界に開かれた市民のホスピタリティの成熟化などの市民活力の向上、といった経済的、社会的に多くの効果を生み出すと考えられる。

数あるコンベンションのなかでも、2002 FIFAワールドカップ™は世界最大規模のスポーツイベントである。このビッグイベントを迎えるため、現在、横浜市をはじめさまざまな関係機関によって準備が進められている。また、国内外からの来訪者を迎えるため、市民のボランティアな活動も活発化してきている。

●横浜みなとみらいホール利用状況

	大ホール		小ホール		その他	施設計
	利用率 (%)	利用人数 (人)	利用率 (%)	利用人数 (人)	利用人数 (人)	利用人数 (人)
平成10年度	65	216,871	80	41,431	16,565	274,867
平成11年度	63	278,465	90	61,844	12,117	352,426
平成12年度	75	298,262	91	64,956	15,705	378,923

●横浜国際総合競技場・観客数5万人以上の大会実績 (平成10年3月～平成13年11月)

開催年月日	大会・イベント名	入場者数
1998.11.07	第34回全国身体障害者スポーツ大会(開会式・陸上競技)	*71,594
1999.08.28	B'z LIVE GYM 99「Brotherhood」	70,000
1999.08.29	B'z LIVE GYM 99「Brotherhood」	70,000
1998.10.24	第53回国民体育大会秋季大会(開会式)	*68,340
1999.06.06	キリンカップサッカー'99「日本vsベルー」	67,354
1998.05.24	キリンカップサッカー'99「日本vsチェコ」	66,930
2001.06.10	コンフェデレーションズカップ2001決勝「日本代表vsフランス代表」	65,335
2000.06.18	キリンカップサッカー'2000「日本vsポリア」	65,073
1998.11.08	第34回全国身体障害者スポーツ大会(陸上競技・閉会式)	*61,762
1999.11.14	ものみの塔集会	61,323
1998.08.16	98 JリーグKodakオールスターサッカー	60,566
1998.03.01	第4回ダイナスティック杯「日本vs韓国」他	59,380
1998.09.15	横浜フリューゲルスvs横浜マリノス	53,598
1998.03.04	横浜マリノスvs横浜フリューゲルス	52,082
1998.03.04	第4回ダイナスティック杯「日本vs香港選抜」他	50,743
1999.09.15	矢沢永吉スペシャルライブ	50,000

*選手、役員、出演者を含む

●横浜国際総合競技場利用実績

種別	平成10年3月～平成13年2月 利用実績(累積)				
	大会・イベント		練習(全)		
	日数	入場者数(人)*	日数	合計日数	
陸上競技	36	198,351	6	42	
サッカー	プロ(国際大会)	7	392,080	20	27
	プロ(Jリーグ等)	49	1,040,002	12	61
	アマチュア	8	39,268	1	9
	その他	1	543	0	1
	小計	65	1,471,893	33	98
ラグビー	4	23,475	0	4	
アメリカンフットボール	3	11,000	0	3	
市民イベント	24	745,242	0	24	
体育大会・運動会	12	97,394	3	15	
コンサート	3	190,000	1	4	
その他イベント	4	61,323	2	6	
国民体育大会及び 全国身体障害者スポーツ大会	10	293,483	25	35	
合計	161	3,092,161	70	231	

*選手、役員、出演者等を含む。

FIFAワールドカップ™
招致の目的と効果

横浜市が2002 FIFAワールドカップ™の開催誘致を行った大きな理由として、21世紀を担う子どもたちに夢と希望を与えること、コンベンション都市の推進などがあげられる。ワールドカップという世界最高の大会が身近な場所で開催されるということは、子どもたちにとって、直接肌で感じた興奮と感動は、生涯を通じて決して忘れられない思い出になるだろう。

もちろん、子どもたちばかりでなく、すべての世代の人々にとっても、この大会がスポーツや健康増進への関心を高めるひとつの契機となるものと考ええる。

また、一方では大会の開催に伴い、国

内外から大勢の人々が横浜を訪れると同時に、各種メディアを通じて全世界の人々に「ヨコハマ」の名前が発信されることとなる。このような意味では、コンベンション都市横浜をアピールできる絶好の機会となり、横浜の知名度の向上は外国企業の誘致や新たなコンベンションの開催はもとより、市内経済の活性化やそれに伴う雇用の促進などさまざまな効果が期待される。

FIFAワールドカップ™への
市民参加

選手・大会関係者とはもとより、観客、メディア関係者など世界各国から多くの人々が参加する2002 FIFAワールドカップ™において、ボランティアスタッフのサポートは大会を成功に導く上で

非常に重要な要素となる。過去の大会でもさまざまな場面でボランティアが活躍し大きな力となった。

横浜市でも、市民や県内在住者の方々に対象に、市内案内所などで外国語対応を含む案内活動などを業務とする「横浜市内通訳案内ボランティア」と、美化推進、案内誘導、イベント補助などを業務とした「一般ボランティア」をともに500人程度募集した。

通訳案内ボランティアには6877名の方々から、一般ボランティアには1857名の方々から応募があり、あらためてボランティア活動への、そして、ワールドカップへの関心の高さをうかがうことができた。最終的に通訳案内ボランティアには725名に、一般ボランティアとして690名の方々が参加することに

WORDS

FIFA
ワールドカップ™

FIFAワールドカップ™とは、サッカー王者を決する4年に1度のスーパーイベントであり、国の威信をかけて戦うサッカーの頂点に位置する大会である。世界の注目度は非常に高く、テレビの視聴者数は1998年に開催された前回のフランス大会では約330億人を記録した。1996年のアトランタオリンピックを上回り、FIFAワールドカップ™の注目度の高さがうかがえる。

今回の大会は、FIFAワールドカップ™史上初のアジアでの開催であるとともに、2カ国の共同開催も初めてのことであり、歴史的な大会といわれている。平成14年5月31日に韓国ソウル特別市で開幕し、6月30日までの間、日本と韓国の各10の開催自治体で熱戦が繰り広げられる。横浜市では横浜国際総合競技場において、平成14年6月9日(日)の日本代表戦を皮切りに、6月11日(火)、6月13日(木)に予選ラウンドが、また、6月30日(日)には世界中が注目する決勝戦が開催される。

なった。

また、大会へ向けて地域住民、商店・企業関係者、市民活動団体などにより、まちの美化清掃活動、装飾による機運醸成などさまざまな取り組みが進められている。

ようこそ
横浜キャンペーンの展開

横浜市では、これまで国際エイズ会議

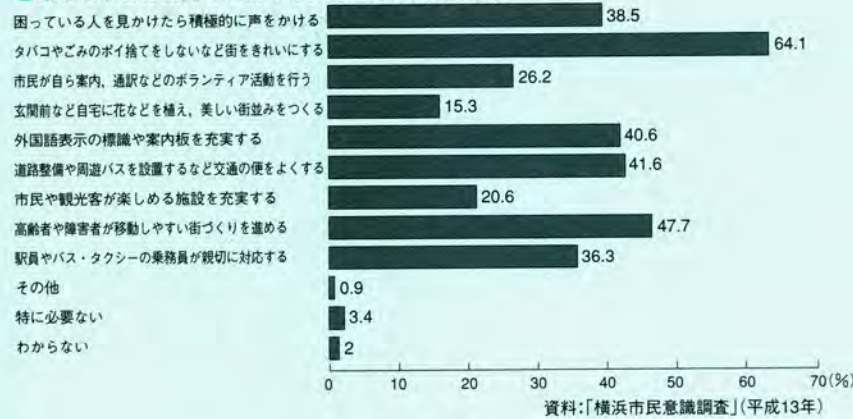
● FIFAワールドカップ™の概要

大会名	大会期間	開催都市数	試合数	総観客数	TV放送局数	TV延視聴者数
1986 メキシコ大会	5.31~6.29 (30日間)	8都市 12スタジアム	52	約240万人	166カ国 /地域	約135億人
1990 イタリア大会	6.8~7.8 (31日間)	12都市 12スタジアム	52	約251万人	167カ国 /地域	約267億人
1994 アメリカ大会	6.17~7.17 (31日間)	9都市 9スタジアム	52	約358万人	198カ国 /地域	約321億人
1998 フランス大会	6.10~7.12 (33日間)	10都市 10スタジアム	64	約279万人	196カ国 /地域	約330億人
2002 韓国・日本大会	5.31~6.30 (31日間)	20都市 20スタジアム	64	—	—	—

【参考】オリンピックの概要

大会名	大会期間	開催都市数	競技数	総観客数	TV放送局数	TV延視聴者数
1992 バルセロナ大会	7.25~8.9 (16日間)	1都市	25競技	約670万人	140カ国	約166億人
1996 アトランタ大会	7.19~8.4 (17日間)	1都市	26競技	約838万人	220カ国	約196億人

● おもてなしの気持ちを育てていくために大切なこと



や横浜トリエンナーレ2001など大規模な国際コンベンションを開催してきた。また、間もなく、2002 FIFAワールドカップ™やパンパシフィック水泳選手権大会横浜2002など世界的なイベントも相次いで開催される。

こうした世界から注目されるこの機会をとらえ、本市を訪れる国内外の方々が「また横浜にいつてみたい」「横浜に住んで

みたい」と感じてもらえるまちを目指して、統一標語「ようこそ横浜」のもと来訪者を温かくもてなす「ホスピタリティ(歓待・心のこもったもてなし)」活動を広げるキャンペーンを展開している。市民・企業・行政が互いに協力して多くの来訪者を温かく迎えることで、個性ある自立的な都市「横浜」を国内外に強くアピールしている。

現在地域で行われている清掃・緑化活動もキャンペーン事業として位置づけ、活動の一層の促進、定着を図っていききたい。

また、これらの活動を含め、コンベンション都市の推進に向けた市民参加の契機としてボランティア活動の機会を設けていく予定にしている。このほか、歓迎バナー(旗や横断幕)の設置やわかりやすい案内標識の整備などのハード面の整備とともに外国人観光客への情報提供の整備も進めている。

こうしたキャンペーン事業の推進には「市民一人ひとり」が主体的に参加することが何よりも重要であり、「市民提案」などを通じて企画段階から広く市民のみなさんご意見を伺っていきたい。

市民と創るコンベンション都市
市民活動プログラム

2002 FIFAワールドカップ™を、単に一過性のスポーツイベントに終わらせてしまわずに、横浜のまちづくりの長期的な展望のなかで、市民、企業、行政のパートナーシップのもとに創造的コンベンション都市を築き上げていくことが求められている。

今回、2002 FIFAワールドカップ™を迎える準備の一環として、横浜市市民活動支援センターにおいて、「はじめ



ようこそ横浜キャンペーンマーク

の「一歩」と称した連続市民講座が開催された。市内の環境、福祉、まちづくりのグループやJAWOC横浜支部のメンバー、市のワールドカップの関係者が連携し、2002 FIFAワールドカップ™をきっかけに、公募で参加した一般市民とともに市民活動を広げていこうという試みであった。この多様な市民グループのネットワークは、市民手づくりのコンベンション都市の創造を現実化する、まさに「はじめの一歩」ではなからうか。

市民意識調査では、「おもてなしの気持ちを育てていくために大切なこと」として、「まちをきれいにする」「困っている人を見たら積極的に声をかける」「案内、通訳などのボランティア活動を行う」など自らが行う活動をあげた市民も多い。これらの市民の自発的な活動が根づくことで、コンベンション都市の本格的な展開が可能となるのではないか。

よこはまの暮らしやすさ。

横浜市民生活白書 平成13年度

定価 800円(本体価格 762円)

編集・発行 平成13年11月30日
横浜市企画局調査課
〒231-0017 横浜市中区港町1丁目1番地
電話 045-671-2029
横浜市広報印刷物登録第130412号
類別・分類 A-BA011

編集協力 (株)文化科学研究所
(株)パスコ(第3章航空写真提供)

デザイン 志岐デザイン事務所
(古屋真樹、奥田陽子、川内連、熱田肇、黒田陽子)

表紙作品 三輪純男

印刷・製本 (株)ガリバー

©2001 横浜市企画局 ※無断転載・複写を禁じます。
本白書は、再生紙を使用しております。